

平成22年6月4日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19720054
 研究課題名（和文） 『うつほ物語』を中心とした平安前期言語文化圏におけるアジア文学・文化の影響
 研究課題名（英文） Influence of Asian literature and Asian culture on “the circle of language culture” of the Heian era initial with special focus to “The Tale of Utsiho”
 研究代表者
 正道寺 康子（SHODOJI YASUKO）
 聖徳大学短期大学部・総合文化学科・准教授
 研究者番号：70320702

研究成果の概要（和文）：『うつほ物語』がどのように形成されたのかを探るために、音楽・絵画・仏典等の影響を調査した。その結果、『うつほ物語』の世界は、『孝子伝』、仏伝、『琴操』等を複合したものであることが判明した。特に注目すべきは、『うつほ物語』では、樹下弹琴図や大樹伝説の影響が大きいことである。さらに、『うつほ物語』の特質を明確にするために、『源氏物語』の樹木表象と比較し、源泉となったものが大きく異なることも指摘した。

研究成果の概要（英文）：To search how “The Tale of Utsuho” had been formed, the influence of music, painting, and Buddhist scriptures was investigated. As a result, it turned out that the world of “The Tale of Utsuho” was a compound of “Koshiden”, “Life of Shakyamuni”, and, “Kinso”, etc. What should be paid attention is that the influence of “figure where the Chinese guqin is played under tree” and “legend of large tree in the world” is large in “The Tale of Utsuho” especially. In addition, it was pointed out that what had become a source compared with the tree symbol of “The Tale of Genji” was greatly different because the characteristic of “The Tale of Utsuho” was clarified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	0	900,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	360,000	2,460,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード： 王朝物語、古代音楽、樹木神話、仏典、七絃琴、和漢比較文学、日中文化交流

1. 研究開始当初の背景

『うつほ物語』は、内外の文学や様々な宗

教、絵画、音楽の影響を受けている。研究代表者は、過去に『うつほ物語引用漢籍注疏

洞中最秘鈔』(共著、平成16年度日本学術振興会科学研究費補助金「研究成果公開促進費」助成出版、新典社、2005年2月)において、『うつほ物語』における引用漢籍・引用仏典の実態を明らかにした。しかしながら、文献レベルでの影響関係にのみ焦点を絞って研究したので、内外の絵画および音楽の影響を切り捨ててしまった憾みがある。

そこで、『うつほ物語』を広くアジア文学・文化の中で考えてゆくことで、『うつほ物語』がどのような特質を持ち、どのように形成されたのかを明らかにしたいと考えた。

2. 研究の目的

上述したように、本研究の目的は、『うつほ物語』をアジア文学・文化の中で考えてゆくことで、『うつほ物語』の形成および特質を明らかにすることにある。

最終的には、王朝物語の形成および特質を明らかにしたいと考えているが、今回は『うつほ物語』に焦点を絞った。なぜなら、『うつほ物語』は日本初の長編物語であり、『源氏物語』に先行する作品であるからである。その『うつほ物語』の世界を明らかにできれば、物語の形成・特質の一端を解明できるのではないかと考えた。

3. 研究の方法

比較文学・比較文化の手法を用いて、『うつほ物語』を始めとする王朝物語を検証した。同時代の内外の文献だけでなく、音楽・絵画・神話・説話・宗教(仏典)等も比較の対象として考慮した。

4. 研究成果

(1) 『うつほ物語』における宗教の影響

まず、平安文学における仏典引用のデータ集積を行い、どのような特徴があるのかを検証した。調査していく中で、明確に分かる仏典引用よりも、仏典引用には該当しないが、仏教の影響が明らかに認められる部分に関心をもつようになった。

最も注目したのは、『うつほ物語』や『源氏物語』に玉虫厨子的世界観(ジャータカの世界観)が認められることである(『聖徳大学短期大学部国語国文学会報』第2号、2008年3月、pp.6-8)。

『うつほ物語』では俊蔭巻漂流譚、『源氏物語』では若菜・上巻の明石入道の手紙に、須弥山(的世界観)・「捨身飼虎」「施身聞偈」の影響が指摘できる。これらは全て、玉虫厨子に描かれている世界である。『うつほ物語』と『源氏物語』はストーリーや主題が異なるのに、なぜ同じ玉虫厨子的世界観が背景にあ

るのか、興味を持った。

そこで、玉虫厨子の影響関係を調査したが、直接的影響を立証するには至らなかった。どのような経緯で、玉虫厨子的世界観が王朝物語に反映されたのか、引き続き調査中である。

なお、仏典引用のデータについては、用例採取の基準を見直している最中である。用例を再検討した上で、なるべく早くに公開したい。

(2) 『うつほ物語』における音楽・絵画の影響

①奈良・平安文学にはどのような琴曲が登場するのかを調査した上で、その特徴を明らかにした。韻文に登場する琴曲と散文に登場する琴曲はあまり重ならないことも指摘した。([図書①])

漢詩文に残る琴曲名としては、南風・関山月・折楊柳・流水・風入松・陽春・幽蘭・三峽流泉・烏夜啼・別鶴操・梅花三弄・沈湘怨・淶水・白雪・唐虞・王昭君・双鳳・梁父吟・楚妃歎・蔡氏之曲など20数曲の琴曲がある。

ところが、物語文学に残る琴曲名は、王昭君に関する琴曲(漢詩文の王昭君曲とは別曲も含まれる)と広陵散に限られ、『狭衣物語』では、催馬楽「更衣」を七絃琴で奏でていて、七絃琴の和様化が認められた。散文に登場する琴曲は少ないものの、物語の主題やプロットと関わる重要な役割を果たしていることが特徴として認められた。

②『うつほ物語』の俊蔭漂流譚では、嵇康の影響が大きいことを指摘した。文献では嵇康の「琴賦」の影響が大きいことは既に指摘されてきたことではあるが、さらに詳細に検証した。

また、嵇康と深く関わる琴曲「広陵散」や嵇康がモデルとされる「樹下弾琴図」の影響についても検証した([学会発表]③、[雑誌論文]②、[図書]①)。『うつほ物語』の冒頭部分、樹下で弾琴する「三人の人」は、正倉院の「金銀平文琴」に施された樹下弾琴図と酷似するが、この樹下弾琴図のモデルが嵇康であることから、嵇康の影響の大きさを指摘した。

③中国古琴奏者の余明氏に依頼し、平安文学に登場する古琴曲を再現することに成功した([学会発表]③)。古琴曲として「関山月」「平沙落雁」「陽関三疊」「大胡笳」「昭君怨」、琵琶曲として「塞上曲」を再現、いずれも平安文学と深く関わる古琴・琵琶曲であり、実存した海彼の琴曲が物語形成に深く関与したことを確認した。

さらに、その古琴曲をDVDに収録し、平安文学の研究者に広く配布した([図書]①)。本DVDは、七絃琴の奏法が分かるので、大

学の講義にも使用でき、教育・研究に大きく貢献するものである。

④『うつほ物語』や『源氏物語』に『琴操』の影響が大きいことを指摘した〔雑誌論文〕①、〔図書〕①。特に、猗蘭操・水仙操・履霜操・聶政刺韓王曲が物語文学に大きな影響を与えている。

『うつほ物語』の忠こそ物語には、『孝子伝』の伯奇の影響が指摘されているが、伯奇にまつわる琴曲が『琴操』にあり（履霜操）、『孝子伝』だけでなく、『琴操』の影響を受けた可能性があることを指摘した。

『琴操』については、まだ注釈書もないので、今後詳細に研究すると、平安文学への影響がさらに明らかになるのではないかと考えた。『琴操』は音楽がどのように文学とかわるかを教えてくれる貴重なテキストであり、引き続き調査したい。

(3)『うつほ物語』における神話・説話の影響

①まず、『うつほ物語』の波斯国西方の桐の巨木が、世界神話や説話に残る不思議な樹木の話と類似することについて検証した〔雑誌論文〕②、〔学会発表〕③。

『うつほ物語』の場合、音楽もさることながら、七絃琴の材となった巨木が重要であることから、音楽を秘めた巨木について考察した。世界の大樹伝説の中でも、望みを叶えてくれたり、予言を与えてくれたりする杖立伝説に注目し、『うつほ物語』は杖立伝説の変形として、望みを叶えてくれる音楽を主題に据えたのではないかと考えた。

②次に、『うつほ物語』俊蔭卷の世界観を考えてゆく中で、『源氏物語』の樹木の描写との大きな違いを発見した。

『源氏物語』では、宇治院の木の下で発見された浮舟は、樹下美人図の影響というよりは、唐代伝奇にあるような樹木怪異譚の影響が大きい。日本に当時伝来したかどうかは証明できないものの、唐代伝奇『南柯太守伝』や『宣室志』（『太平広記』所引）の「呉偃」と浮舟物語が類似することから、両者を比較・検証した。

さらに、浮舟物語は、樹木怪異譚で終わることなく、後に浮舟が出家する点に注目した。仏教の世界では、樹下には「死と再生」のモチーフが認められた。また、樹下で儀礼を行うことは古くよりあり、市にたつ聖樹の下では刑罰が行われている。以上を勘案し、木は浮舟の墓標であると同時に、浮舟を出家へと導く贖罪の木でもあったと考えた。

当初、『源氏物語』を考察の対象としていなかったが、源泉となったものが『うつほ物語』とは大きく異なり、両作品の差異が明ら

かになると考え、『源氏物語』も視野に入れて研究を進めることになった。〔学会発表〕①②④、〔その他〕の欄に記載の〔雑誌論文〕②)。

(4)その他の研究成果

『うつほ物語』俊蔭漂流譚の世界に、東アジアの異界が深く関わっていることを考察する中で、島根県神原神社古墳出土の三角縁神獣鏡に施された異界についても注目した。特に、神獣鏡に描かれた七絃琴の名手・伯牙の意味するところを明らかにした。鏡には描かれない巨木が幻視できることを大樹伝説より明らかにした〔その他〕の欄に記載の〔雑誌論文〕①)。

伯牙の『うつほ物語』への影響については、引き続き検討したい。

(5) (1)～(4)を総合した結果

音楽や樹木に関する描写について、『うつほ物語』俊蔭卷は、『孝子伝』、仏伝、『琴操』を複合した世界である。また、樹下美人図や古琴曲、大樹伝説（杖立伝説）等の影響も大きかった。

同時代の『源氏物語』と比較することで、その差異はより明確となり、その結果、『うつほ物語』の特質を浮かび上がらせることに成功した。同じものを源泉としながらも、異なるテーマ（主題）で物語が展開したり（研究成果（1））、源泉が異なることで両作品の世界観が全く異なること（研究成果（3））を指摘した。

今後は、『うつほ物語』に影響を与えた内外の文学・文化について整理し、体系だててまとめたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

①正道寺康子、『うつほ物語』の忠こそと『琴操』「履霜操」、聖徳大学短期大学国語国文学会報、査読無、第3号、2010、pp.7-8

②正道寺康子、『うつほ物語』の音楽と樹木神話、アジア遊学126 琴の文化史 東アジアの音風景、依頼原稿、勉誠出版、2009、pp.96-105

〔学会発表〕（計4件）

①正道寺康子、『源氏物語』と唐代伝奇一木の下で発見された浮舟に注目して一、シンポジウム「日本語文化圏におけるアジア文化の影響」、招聘発表、2009年中國文化大學日本語文學系・台日交流學術研討會主催、於中國文化大學、2009年12月25日

②正道寺康子、『源氏物語』の樹下美人図一

「森かと思ゆる木の下」の浮舟一、平成21年度全国大学国語国文学会夏季大会、於明治大学、2009年6月7日

- ③ 正道寺康子、『うつほ物語』の音楽と樹木神話、シンポジウム「〈琴韻〉のテキスト学構築のために 王朝物語史の中の東アジア文化」、於立教大学、2009年3月8日
- ④ 正道寺康子、木の下の浮舟、聖徳大学短期大学部国語国文学会、於聖徳大学短期大学部、2009年2月5日

〔図書〕(計1件)

- ① 正道寺康子、上原作和、余明、フラッグメディアサービス、平安文学と琴曲 余明王昭君を奏でる、2010、60

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

・下記のシンポジウムのコーディネーターおよび司会を担当した。

- ① 「源氏物語と七絃琴 京都シンポジウム」、於同志社大学、2009年2月28日
木下綾子「光源氏の琴と漢籍—須磨流謫を中心に—」
原豊二「遣唐使と七絃琴—歴史と文学の間から—」
西本香子「源氏物語の^{キン}琴とうつほ物語の^{キン}琴」
小島美子「コトとは何か？」
伏見无家 七絃琴演奏・解説
ディスカッション

・下記のシンポジウムを企画・開催した。

- ① シンポジウム「〈琴韻〉のテキスト学構築のために 王朝物語史の中の東アジア文

化」、於立教大学、2009年3月8日
正道寺康子 「『うつほ物語』の音楽と樹木神話」

上原作和 「『原中最秘抄』の琴学史 徳大寺・西園寺家の「秘説」の相伝と継承」
豊永聡美 「宮廷社会と楽器」
高橋亨 「『源氏物語』六条院の女楽をめぐる」
余明 古琴・琵琶演奏
ディスカッション

・2010年度の業績になるが、下記の2件も本科学研究費補助金による研究成果である。
〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 正道寺康子、島根県神原神社古墳の三角縁神獣鏡と異界、『アジア遊学』、依頼原稿、勉誠出版、pp.186-191、2010年7月刊行予定
- ② 正道寺康子、『源氏物語』「森かと思ゆる木の下」の浮舟—樹木怪異譚および樹下における儀礼との関連—、中日文化論叢、依頼原稿、中國文化大學、2010年7月刊行予定(入稿済)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

正道寺 康子 (SHODOJI YASUKO)
聖徳大学短期大学部・総合文化学科・准教授
研究者番号：70320702

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

()
研究者番号：